

分科会活動報告

2021年度環境過敏症分科会活動報告

北 條 祥 子¹⁾²⁾ 水 越 厚 史³⁾ 黒 岩 義 之⁴⁾⁵⁾

1) 東北大学大学院歯学研究科

2) 尚絅学院大学

3) 近畿大学医学部環境医学・行動科学教室

4) 帝京大学医学部付属溝口病院脳神経内科・脳卒中センター

5) 横浜市立大学医学部脳神経内科

Report of the Environmental Sensitivity Subspecialty Meeting (2021)

Sachiko Hojo¹⁾²⁾ Atsushi Mizukoshi³⁾ Yoshiyuki Kuroiwa⁴⁾⁵⁾

1) Tohoku University Graduate School of Dentistry

2) Shokei Gakuin University

3) Kindai University Faculty of Medicine, Environmental Medicine and Behavioral Science

4) Department of Neurology and Stroke Center, Teikyo University School of Medicine, Mizonokuchi Hospital

5) Department of Neurology, Yokohama City University School of Medicine

1 分科会の設立趣旨・目的

環境過敏症（環境不耐症）は日常生活の外的環境刺激に対する感覚過敏症状（光過敏、音過敏、臭い過敏、気圧過敏、化学物質過敏、電磁過敏）に加えて、自律神経・内分泌症状、免疫・アレルギー症状、慢性疼痛、慢性疲労、記憶・情動障害などの多彩な全身症状を特徴とする健康障害の総称であり、アレルギー疾患と密接な関係がある。代表例として、シックハウス症候群（SHS）、化学物質過敏症（MCS）、電磁過敏症（EHS）が挙げられる。近年、先進国を中心に、患者の急増が問題視されており、早急な病態解明や予防対策が求められている。本分科会の目的は国内外の幅広い分野の研究者と情報交換・情報共有を行いながら、科学的に未解明な環境過敏症の病態解明の

ための基礎的研究を行い、その研究成果をわかりやすく一般市民にも提示し、環境過敏症に関する認知度をあげることである。

【環境過敏症分科会設立の背景および目的】

近年、世界的に、環境過敏症（環境不耐症）と呼ばれる健康障害を訴える人の急増が問題になっている。環境過敏症とは、通常では問題にならないような身の回りの微量な化学物質（タバコ煙・化粧品・医薬品・殺虫剤・芳香剤等）、生物的要因（カビ・ダニ・ウイルス・花粉等）、物理的要因（音・光・気象条件・電磁波等）により、多器官に多彩な症状が現れる健康障害の総称である。代表例はシックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁過敏症で、アレルギー疾患とも密接に関係し

ていると考えられている。その病態は科学的に不明なことが多いが、環境過敏症はアレルギー疾患や生活習慣病と同様に、生活環境中の様々な環境要因、遺伝要因、身体要因などと複雑に絡み合っ
て発症する健康障害ではないかと考えられている。その発症メカニズムを解明し、有効な治療法・予防法を検討するためには、医療関係者ばかりでなく、その他の幅広い専門分野（建築、環境工学、生物学、化学、物理学、環境社会学など）の研究者が学際的な情報・意見交換し、共同研究を行いながら、日本の実情に即した対策を検討することが必要と考え、本分科会を設立した。

本分科会の目的は、日本における環境過敏症患者の実態を解明し、世界の研究者と情報交換しながら、科学的に未解明な環境過敏症の病態解明、診断基準の確立、治療法・予防法の確立をめざすことである。

【2021年度の活動】

本年度は、以下のような活動を実施した。

1. メーリングリスト（管理者：水越厚史）を通じた情報交換

日常的に、メーリングリストを通して、環境過敏症に関する基礎的な知識・情報および現状に関する調査結果などの情報交換・共有を行い、分担して整理した。

2. オンライン勉強会「コロナ下で環境過敏症の発症予防を目指して（その3）」の開催

（合同開催：日本臨床環境医学会環境過敏症分科会、室内環境学会環境過敏症分科会、生活環境と健康研究会）

日時：2021年8月29日（日）10：00-12：40

企画・進行：北條祥子、黒岩義之、水越厚史、鈴木高弘（Zoom 担当）

記録：星野陽子、大塚健司、柳田徹郎

参加者：32名

〈開会の挨拶〉 北條祥子（主催者代表）

〈第1部 基調講演〉 座長：黒岩義之

- 1) 小倉英郎（医療法人高幡会大西病院、国立病院機構高知病院）

「成人及び小児のシックハウス症候群、化学物質過敏症、および電磁過敏症の最近の動向について－当院受診患者＋の検討から－」

- 2) 平久美子（東京女子医科大学東医療センター）

「環境過敏を訴える成人患者の医療へのアクセス改善を目指した診療ガイドライン作成」

- 3) 渡井健太郎（国立病院機構相模原病院臨床研究センター）

「化学物質過敏症患者における腸内細菌叢メタゲノム解析・日本人化学物質過敏症に関連する遺伝要因の解明－全ゲノムSNP解析（客観的診断と治療に向けて）」

〈第2部 話題提供〉 座長：水越厚史

- 1) 出村 守（札幌でむら小児クリニック）

「中和療法と栄養サプリメントが著効した小児多種類化学物質過敏症の一症例」

- 2) 柳田徹郎（東京大学大学院工学研究科都市工学専攻・修士課程1年）

「子どもやアレルギー／環境過敏症患者にも配慮した「まちづくり」をめざして」

- 3) 小山桃花（宮城教育大学教育学部中等教育教員養成4年）

「新型コロナウイルス感染拡大による大学生の生活スタイルの変化と健康影響の実態調査（卒業研究）」

- 4) 黄 琳琳（台湾正修科技大学）

「台湾における環境過敏症研究の現状と今後の展望」

〈第3部 総合討論〉 座長：北條祥子

新規メンバー自己紹介後、今後の活動についての活発な審議を行った。

〈閉会の挨拶（総括）〉黒岩義之（主催者副代表）

3. オンライン勉強会「コロナ下で環境過敏症の発症予防を目指して（その4）」の開催

（合同開催：日本臨床環境医学会環境過敏症分科会、室内環境学会環境過敏症分科会、生活環境と健康研究会）

日時 2021年12月26日（日）13：00-15：30

企画・進行：北條祥子、黒岩義之、水越厚史、鈴木高弘（Zoom 担当）

記録担当：柳田徹郎、星野陽子、岩崎由美子

参加者：21名

総合司会：水越厚史

〈開会の挨拶〉 北條祥子（主催者代表）

集合写真撮影

〈第1部 基調講演〉 座長 吉野 博
林 基哉（北海道大学教授）

「新型コロナウイルス感染症のクラスター感染と空調換気性状」

〈第2部 話題提供〉座長 黒岩義之、水越厚史

1) 中里直美（前国際医療福祉大学熱海病院薬剤師）

「薬剤師からみた環境過敏症・脳脊髄液減少症患者の感覚・免疫過敏に関する調査」

2) 近藤哲哉（関西医療大学保健医療学講座教授）

「心療内科医からみた環境過敏症患者の現状と今後の展望」

3) 柳田徹郎（東京大学大学院工学研究科都市工学専攻・修士課程2年）

「都市工学研究者からみた環境過敏症に関する今後の展望：民間の賃貸住宅における室内空気質を原因とした健康リスクについての考察」

4) 小山桃花（宮城教育大学家庭科専攻4年生）

「教員養成課程の大学生からみた環境過敏症に関する今後の展望：新型コロナウイルス感染拡大による大学生の生活スタイルの変化と健康影響の実態調査」

〈第3部 総合討論〉 座長 北條祥子

“自分の専門分野からみた環境過敏症発症予防に関する今後の展望”について、参加者全員が意見を述べた。そして、後日、自分の意見を文章として提出することとした。

〈閉会の挨拶（総括）〉 黒岩義之（主催者副代表）

4. 台湾建築医学会との国際協力の開始

2022年度から台湾建築医学会との国際協力を開始した。台湾側は黄琳琳（正修科技大学准教授）

が担当、日本側は池田耕一と北條祥子が台湾建築医学会の招聘顧問に任命され、担当することとなった。最初の取り組みとして、2021年 International Symposium of Precision Environmental Medicine（2021年9月27日開催）に、北條が基調講演“Recent findings and outlook for the future on environmental hypersensitivity from an epidemiological perspective, focusing on a domestic survey study of environmental hypersensitivity using the international common questionnaire”を実施。今後は、台湾の研究者が日本臨床環境医学会学術集會に参加予定である。

【分科会メンバー（アイウエオ順 *2021年度幹事）】

代 表：北條祥子（尚絅学院大学 / 東北大学大学院歯学研究科）

副代表：黒岩義之（帝京大学医学部附属溝口病院 脳神経内科 / 横浜市立大学）

水越厚史（近畿大学医学部環境医学・行動科学教室）

〈医学・医療分野〉

相澤好治（北里大学名誉教授）、青木真一（秋田協立歯科医院）、石川 哲（北里大学名誉教授）、*上田 厚（NPO 法人アジアヘルスプロモーションネットワークセンター）、内山巖雄（公財）ルイ・パストゥール医学研究センター）、大澤 稔（東北大学病院）、奥村二郎（近畿大学医学部環境医学・行動科学教室）、小倉英郎（高幡会大西病院）、角田和彦（かくたこども & アレルギークリニック）、黒岩義之（帝京大学医学部附属溝口病院）、近藤哲哉（関西医療大学保健医療学部）、坂部 貢（千葉大学予防医学センター）、*鈴木高弘（横浜薬科大学）、鈴木珠水（独協医科大学看護学部）、*平久美子（東京女子医科大学附属足立医療センター）、高塚俊治（岡山駅前歯科診療所）、高野裕久（京都大学大学院地球環境学環境健康科学）、土器屋美貴子（佐賀大学医学部）、*中里直美（前）、国際医療福祉大学熱海病院薬剤部）、西影京子（よこはまにしかげ小児科・アレルギー科）

クリニック)、*乳井美和子(そよ風クリニック)、北條祥子(東北大学)、松井孝子(秋田大学)、水越厚史(近畿大学医学部)、宮田幹夫(そよ風クリニック)、山國 徹(東北大学)、山中隆夫(独相模原医療センター)、吉田貴彦(旭川医科大学)、渡井健太郎(湘南鎌倉病院・アレルギー科)

〈建築・生物学・化学・物理学・工学・社会科学分野〉

池田耕一(前)日本大学理工学部建築学科)、一條祐介(東北文化学園大学大学院)、岩崎由美子(総合地球環境学研究所)、上田昌文(市民科学研究室)、木村-黒田純子(環境脳神経情報センター)、近藤加代子(九州大学)、東門田誠一(尚絅学院大学)、徳村雅弘(静岡県立大学)、二科妃里(東北文化学園大学大学院)、林 基哉(北海道大学工学研究院)、黄 琳琳(台湾正修科技大学)、星野陽子(足利市立北郷小学校)、宮田英威(東北大学理学部物理)、柳沢幸雄(東京大学名誉教授)、柳田徹郎(東京大学大学院工学研究科)、吉野 博(東北大学名誉教授)